

# 日本キツツキ研究集会

(1st Japanese Woodpecker Sub-symposium)

テーマ : キツツキの個体群生物学

第1回コーディネーター：太田 貴大

本連続集会は、①日本産キツツキやそれらと関わりを持つ生物を対象とした、様々な研究事例やテーマについて発表・議論を行い、②鳥類研究者のみならず、多くの人達に向け情報を発信することを主な目的とする。③また、キツツキに関連する研究者の情報交換も目的にしている。

現在、国内にはキツツキ科9種が分布している。これらの現状は様々であり、抱える問題や興味深いテーマも豊富に存在する。今後は、「系統や分類」「分布や進化史」「営巣環境選択」「キツツキ同士の種間関係」「日本固有キツツキ」「森林の生物多様性を生み出すキツツキ」「林業とキツツキ」といったテーマを取り上げる予定である。日本産キツツキのレビューも行っていく。

第1回では、個体群生物学という切り口でキツツキを眺めてみる。昨夏、第6回国際キツツキシンポジウム(6th International Woodpecker Symposium: IWS)が行われた。そのメインテーマが個体群生物学(Population biology)であった。それに合わせ、国内での個体群生物学の諸テーマについて発信する。また、国際的なキツツキ研究者間の繋がり的发展や、日本のキツツキ研究の世界への紹介も目指し、今後は、インターネットサイトを立ち上げ、集会の内容を英語で発信することも行っていく予定である。



## 内容

- ・6th IWS参加報告 太田 貴大(京都大学 農学部)  
昨夏フィンランドで行われたシンポジウムのレビューを行う。
- ・個体群の形態比較 石田 健(東京大学大学院 農学生命科学研究科)  
日本産コゲラの各個体群間の形態比較を行い、その進化を考える。
- ・個体群の分子遺伝学 太田 貴大(京都大学 農学部)  
急速に進歩している、DNAによる個体群の遺伝構造の解析法を、キツツキに適用することにより明らかになるテーマについて発信する。
- ・個体群の維持機構 石田 健(東京大学大学院 農学生命科学研究科)  
キツツキ亜科個体群の生態的特徴の一般論と、絶滅危惧個体群の管理について紹介する。